

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年2月5日

【四半期会計期間】 第201期第3四半期(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

【会社名】 株式会社 山形銀行

【英訳名】 The Yamagata Bank , Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役頭取 長谷川 吉 茂

【本店の所在の場所】 山形県山形市七日町三丁目1番2号

【電話番号】 山形(023)623局1221番(大代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総合企画部長 丹 野 晴 彦

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区京橋二丁目5番16号  
株式会社山形銀行東京事務所

【電話番号】 東京(03)3567局1868番(代表)

【事務連絡者氏名】 東京事務所長 那 須 洋 一

【縦覧に供する場所】 株式会社 東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
株式会社 山形銀行東京支店  
(東京都中央区京橋二丁目5番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

		平成23年度 第3四半期連結 累計期間	平成24年度 第3四半期連結 累計期間	平成23年度
		(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
経常収益	百万円	33,068	35,544	44,597
経常利益	百万円	5,231	6,658	8,140
四半期純利益	百万円	2,879	3,687	
当期純利益	百万円			4,039
四半期包括利益	百万円	2,174	6,428	
包括利益	百万円			7,257
純資産額	百万円	114,792	125,271	119,872
総資産額	百万円	2,111,895	2,240,486	2,195,995
1株当たり四半期純利益金額	円	16.89	21.63	
1株当たり当期純利益金額	円			23.69
潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額	円			
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	円			
自己資本比率	%	5.2	5.3	5.2

		平成23年度第3四半 期連結会計期間	平成24年度第3四半 期連結会計期間
		(自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)	(自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	円	1.22	9.55

- (注) 1. 当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。  
2. 第3四半期連結累計期間に係る1株当たり情報の算定上の基礎は、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。  
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、潜在株式がないので記載しておりません。  
4. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式がないので記載しておりません。  
5. 自己資本比率は、( (四半期)期末純資産の部合計 - (四半期)期末少数株主持分)を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出しております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事業等のリスクについては、前事業年度の有価証券報告書における記載から重要な変更および新たに発生したリスクはありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

連結財政状態につきまして、貸出金の当第3四半期連結会計期間末残高は、一般法人向け貸出を中心に増加し、1兆3,199億円となりました（前連結会計年度末比312億円増加、前第3四半期連結会計期間末比621億円増加）。預金等の当第3四半期連結会計期間末残高は、公金預金の減少を主因に前連結会計年度末比では減少しておりますが、前第3四半期連結会計期間末比では個人預金を中心に堅調に推移し、2兆46億円となりました（前連結会計年度末比192億円減少、前第3四半期連結会計期間末比782億円増加）。

連結経営成績につきまして、当第3四半期連結累計期間の経常収益は、資金運用収益が減少したものの、国債等債券売却益の増加に加え、貸倒引当金戻入益を計上したことなどから355億44百万円（前第3四半期連結累計期間比24億76百万円増加）となりました。

経常費用は、資金調達費用が減少したものの、有価証券関係損失が増加したことなどから、288億85百万円（同10億48百万円増加）となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経常利益は66億58百万円（同14億27百万円増加）、四半期純利益は36億87百万円（同8億7百万円増加）となりました。

当第3四半期連結累計期間のセグメント業績は、銀行業では、経常収益は307億94百万円（前第3四半期連結累計期間比24億35百万円増加）となり、セグメント利益は60億92百万円（同12億42百万円増加）となりました。リース業では、経常収益は37億12百万円（同74百万円増加）となり、セグメント利益は2億7百万円（同53百万円増加）となりました。また、その他の事業では、経常収益は17億52百万円（同1億33百万円減少）となり、セグメント利益は4億32百万円（同2億48百万円増加）となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間に係るキャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

#### (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題、研究開発活動

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

研究開発活動については該当ありません。

## 国内・国際業務部門別収支

## (国内業務部門)

資金運用収支は、資金運用収益が201億22百万円（前第3四半期連結累計期間比4億83百万円減少）、資金調達費用が22億79百万円（同9百万円減少）となったことから、178億43百万円（同4億73百万円減少）となりました。

役務取引等収支は、役務取引等収益が52億79百万円（同33百万円減少）、役務取引等費用が15億77百万円（同15百万円増加）となったことから、37億1百万円（同48百万円減少）となりました。

その他業務収支は、その他業務収益が61億64百万円（同6億59百万円増加）、その他業務費用が46億40百万円（同7億12百万円増加）となったことから、15億24百万円（同52百万円減少）となりました。

## (国際業務部門)

資金運用収支は、資金運用収益が7億2百万円（同1億28百万円減少）、資金調達費用が2億26百万円（同1億7百万円減少）となったことから、4億75百万円（同20百万円減少）となりました。

役務取引等収支は、役務取引等収益が38百万円（同0百万円増加）、役務取引等費用が22百万円（同0百万円増加）となったことから、16百万円（同0百万円減少）となりました。

その他業務収支は、その他業務収益が5億64百万円（同3億11百万円増加）、その他業務費用が7百万円（同4百万円増加）となったことから、5億57百万円（同3億7百万円増加）となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額( )	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第3四半期連結累計期間	18,316	496		18,813
	当第3四半期連結累計期間	17,843	475		18,318
うち資金運用収益	前第3四半期連結累計期間	20,605	830	155	21,279
	当第3四半期連結累計期間	20,122	702	111	20,712
うち資金調達費用	前第3四半期連結累計期間	2,288	334	155	2,466
	当第3四半期連結累計期間	2,279	226	111	2,393
役務取引等収支	前第3四半期連結累計期間	3,749	16		3,765
	当第3四半期連結累計期間	3,701	16		3,717
うち役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	5,312	38		5,350
	当第3四半期連結累計期間	5,279	38		5,317
うち役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	1,562	21		1,584
	当第3四半期連結累計期間	1,577	22		1,600
その他業務収支	前第3四半期連結累計期間	1,577	250		1,827
	当第3四半期連結累計期間	1,524	557		2,081
うちその他業務収益	前第3四半期連結累計期間	5,505	253		5,758
	当第3四半期連結累計期間	6,164	564		6,729
うちその他業務費用	前第3四半期連結累計期間	3,927	3		3,930
	当第3四半期連結累計期間	4,640	7		4,647

(注) 1. 国内業務部門とは当行及び連結子会社の円建取引、国際業務部門とは当行及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は国際業務部門に含めております。

2. 相殺消去額は、「国内業務部門」と「国際業務部門」の間の資金貸借の利息であります。

国内・国際業務部門別役務取引の状況

国内業務部門においては、役務取引等収益は52億79百万円（前第3四半期連結累計期間比33百万円減少）となりました。役務取引等費用は15億77百万円（同15百万円増加）となりました。

国際業務部門においては、役務取引等収益は主に為替取引で構成されており、38百万円（同0百万円増加）となりました。役務取引等費用は22百万円（同0百万円増加）となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額( )	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	5,312	38		5,350
	当第3四半期連結累計期間	5,279	38		5,317
うち預金・貸出業務	前第3四半期連結累計期間	572			572
	当第3四半期連結累計期間	636			636
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	1,206	36		1,242
	当第3四半期連結累計期間	1,202	37		1,240
うち証券関連業務	前第3四半期連結累計期間	69			69
	当第3四半期連結累計期間	78			78
うち代理業務	前第3四半期連結累計期間	809			809
	当第3四半期連結累計期間	765			765
うち保護預り貸金庫業務	前第3四半期連結累計期間	69			69
	当第3四半期連結累計期間	67			67
うち保証業務	前第3四半期連結累計期間	986	1		987
	当第3四半期連結累計期間	1,002	0		1,003
役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	1,562	21		1,584
	当第3四半期連結累計期間	1,577	22		1,600
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	255	13		268
	当第3四半期連結累計期間	255	14		269

(注) 国内業務部門とは当行及び連結子会社の円建取引、国際業務部門とは当行及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は国際業務部門に含めております。

国内・国際業務部門別預金残高の状況

預金の種類別残高(末残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額( )	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第3四半期連結会計期間	1,836,944	4,632		1,841,577
	当第3四半期連結会計期間	1,885,848	4,262		1,890,110
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	956,660			956,660
	当第3四半期連結会計期間	988,895			988,895
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	874,503			874,503
	当第3四半期連結会計期間	883,465			883,465
うちその他	前第3四半期連結会計期間	5,780	4,632		10,413
	当第3四半期連結会計期間	13,487	4,262		17,749
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	84,851			84,851
	当第3四半期連結会計期間	114,541			114,541
総合計	前第3四半期連結会計期間	1,921,796	4,632		1,926,428
	当第3四半期連結会計期間	2,000,389	4,262		2,004,651

(注) 1. 国内業務部門とは当行及び連結子会社の円建取引、国際業務部門とは当行及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は国際業務部門に含めております。

2. 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金

3. 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金

国内・国際業務部門別貸出金残高の状況

業種別貸出状況(末残構成比)

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内 (除く特別国際金融取引勘定分)	1,257,774	100.00	1,319,946	100.00
製造業	165,641	13.17	170,163	12.89
農業、林業	3,615	0.29	4,110	0.31
漁業	165	0.01	119	0.01
鉱業、採石業、砂利採取業	327	0.03	254	0.02
建設業	42,418	3.37	42,356	3.21
電気・ガス・熱供給・水道業	21,170	1.68	22,589	1.71
情報通信業	7,101	0.57	7,445	0.56
運輸業、郵便業	20,844	1.66	21,590	1.64
卸売業、小売業	156,396	12.43	159,231	12.06
金融業、保険業	65,066	5.17	69,028	5.23
不動産業、物品賃貸業	124,277	9.88	125,900	9.54
各種サービス業	97,636	7.76	97,646	7.40
地方公共団体	195,899	15.58	231,559	17.54
その他	357,210	28.40	367,947	27.88
特別国際金融取引勘定分				
政府等				
金融機関				
その他				
合計	1,257,774		1,319,946	

(注) 「国内」とは、当行および国内(連結)子会社であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	298,350,000
計	298,350,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年2月5日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	172,000,000	172,000,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株でありま す。
計	172,000,000	172,000,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年12月31日		172,000		12,008		4,932

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,510,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 168,841,000	168,841	
単元未満株式	普通株式 1,649,000		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	172,000,000		
総株主の議決権		168,841	

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社山形銀行	山形市七日町三丁目 1番2号	1,510,000		1,510,000	0.87
計		1,510,000		1,510,000	0.87

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。



## 第4 【経理の状況】

1. 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(昭和57年大蔵省令第10号)に準拠しております。
2. 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)及び第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
現金預け金	50,096	27,106
コールローン及び買入手形	79,508	29,823
買入金銭債権	7,418	7,619
商品有価証券	43	32
有価証券	725,070	804,506
貸出金	1,288,728	1,319,946
外国為替	1,030	1,180
その他資産	20,386	25,465
有形固定資産	13,728	13,458
無形固定資産	1,255	1,336
繰延税金資産	3,524	851
支払承諾見返	19,630	21,318
貸倒引当金	14,427	12,157
資産の部合計	2,195,995	2,240,486
<b>負債の部</b>		
預金	1,945,545	1,890,110
譲渡性預金	78,337	114,541
コールマネー及び売渡手形	-	9,126
債券貸借取引受入担保金	2,750	9,365
借入金	9,106	45,357
外国為替	37	109
その他負債	16,778	21,524
役員賞与引当金	20	10
退職給付引当金	1,405	1,194
役員退職慰労引当金	241	264
睡眠預金払戻損失引当金	209	245
偶発損失引当金	182	192
利息返還損失引当金	240	230
再評価に係る繰延税金負債	1,636	1,624
支払承諾	19,630	21,318
負債の部合計	2,076,123	2,115,215
<b>純資産の部</b>		
資本金	12,008	12,008
資本剰余金	4,939	4,939
利益剰余金	91,742	94,430
自己株式	818	819
株主資本合計	107,872	110,559
その他有価証券評価差額金	7,477	10,306
繰延ヘッジ損益	2,182	2,618
土地再評価差額金	1,057	1,033
その他の包括利益累計額合計	6,352	8,722
少数株主持分	5,648	5,989
純資産の部合計	119,872	125,271
負債及び純資産の部合計	2,195,995	2,240,486

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
経常収益	33,068	35,544
資金運用収益	21,279	20,712
(うち貸出金利息)	15,585	15,082
(うち有価証券利息配当金)	5,385	5,374
役務取引等収益	5,350	5,317
その他業務収益	5,758	6,729
その他経常収益	<sup>1</sup> 679	<sup>1</sup> 2,785
経常費用	27,837	28,885
資金調達費用	2,466	2,393
(うち預金利息)	1,194	1,207
役務取引等費用	1,584	1,600
その他業務費用	3,930	4,647
営業経費	17,447	17,733
その他経常費用	<sup>2</sup> 2,407	<sup>2</sup> 2,511
経常利益	5,231	6,658
特別利益	0	10
固定資産処分益	0	10
特別損失	156	46
固定資産処分損	91	9
減損損失	65	36
税金等調整前四半期純利益	5,074	6,623
法人税、住民税及び事業税	198	1,148
法人税等調整額	2,056	1,441
法人税等合計	2,255	2,589
少数株主損益調整前四半期純利益	2,819	4,033
少数株主利益又は少数株主損失( )	59	346
四半期純利益	2,879	3,687

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,819	4,033
その他の包括利益	644	2,394
- 其他有価証券評価差額金	294	2,830
- 繰延ヘッジ損益	1,173	435
- 土地再評価差額金	234	-
四半期包括利益	2,174	6,428
(内訳)		
- 親会社株主に係る四半期包括利益	2,233	6,081
- 少数株主に係る四半期包括利益	58	347

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年12月31日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当行及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これによる影響額は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
破綻先債権額	3,398百万円	3,791百万円
延滞債権額	21,264百万円	18,992百万円
3ヵ月以上延滞債権額	45百万円	37百万円
貸出条件緩和債権額	2,973百万円	3,243百万円
合計額	27,682百万円	26,064百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

(四半期連結損益計算書関係)

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
貸倒引当金戻入益	百万円	1,955百万円

2. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
株式等償却	1,341百万円	956百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	1,197百万円	926百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	511	3.00	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金
平成23年11月11日 取締役会	普通株式	511	3.00	平成23年9月30日	平成23年12月9日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	511	3.00	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金
平成24年11月12日 取締役会	普通株式	511	3.00	平成24年9月30日	平成24年12月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する 経常収益	28,235	3,527	31,762	1,472	33,235	166	33,068
セグメント間の 内部経常収益	123	110	234	414	648	648	
計	28,358	3,638	31,996	1,886	33,883	815	33,068
セグメント利益	4,849	154	5,004	184	5,188	42	5,231

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。  
2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、事務代行業、信用保証業、データ処理業、クレジットカード事業、ベンチャーキャピタル業等であります。  
3. 外部顧客に対する経常収益の調整額 166百万円は、「リース業」及び「その他」の貸倒引当金繰入額の調整額であります。  
4. セグメント利益は四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っており、また、セグメント利益の調整額42百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「銀行業」において営業店舗および遊休資産の減損処理を行っております。当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において65百万円であり、その内訳は、営業店舗45百万円、遊休資産19百万円であります。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する 経常収益	30,683	3,620	34,304	1,329	35,633	88	35,544
セグメント間の 内部経常収益	110	91	201	423	625	625	
計	30,794	3,712	34,506	1,752	36,259	714	35,544
セグメント利益	6,092	207	6,300	432	6,733	74	6,658

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。  
2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、事務代行業、信用保証業、データ処理業、クレジットカード事業、ベンチャーキャピタル業等であります。  
3. 外部顧客に対する経常収益の調整額 88百万円は、「その他」の貸倒引当金戻入益の調整額であります。  
4. セグメント利益は四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っており、また、セグメント利益の調整額74百万円は、セグメント間取引消去であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「銀行業」において遊休資産の減損処理を行っております。当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において36百万円であります。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

これによる「銀行業」及び「リース業」のセグメント利益に与える影響は軽微であります。

(有価証券関係)

- 1 企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。
- 2 四半期連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「買入金銭債権」中の信託受益権を含めて記載しております。

### 1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成24年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債			
地方債			
社債	9,052	9,163	110
その他			
合計	9,052	9,163	110

当第3四半期連結会計期間(平成24年12月31日)

	四半期連結貸借対照 表計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債			
地方債			
社債	8,794	8,936	142
その他			
合計	8,794	8,936	142



## 2 その他有価証券

前連結会計年度（平成24年3月31日）

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額(百万円)
株式	26,558	28,048	1,490
債券	562,818	573,981	11,163
国債	332,069	336,416	4,346
地方債	130,835	136,550	5,714
社債	99,912	101,014	1,102
その他	115,709	114,847	862
合計	705,086	716,877	11,790

当第3四半期連結会計期間（平成24年12月31日）

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照 表計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	23,563	26,704	3,141
債券	652,388	664,760	12,372
国債	428,459	433,472	5,013
地方債	127,287	133,367	6,080
社債	96,641	97,920	1,279
その他	103,925	104,484	559
合計	779,876	795,950	16,073

(注) 1. 売買目的有価証券以外の有価証券（時価を把握することが極めて困難なものを除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額（連結貸借対照表計上額）とするとともに、評価差額を当第3四半期連結累計期間（連結会計年度）の損失として処理（以下、「減損処理」という。）しております。

前連結会計年度における減損処理額は、358百万円（うち、株式324百万円、債券34百万円）であります。

当第3四半期連結累計期間における減損処理額は、953百万円（うち、株式953百万円）であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、個々の銘柄について当第3四半期連結会計期間末日における時価が取得原価に比較して50%以上下落している場合、及び30%以上50%未満の下落率の場合で発行会社の業況や過去の一定期間における時価の推移等を考慮し、時価の回復可能性が認められない場合であります。

2. 変動利付国債の時価については、昨今の市場環境を踏まえた検討の結果、引き続き売り手と買い手の希望する価格差が著しく大きく、市場価格を時価とみなせない状態にあると判断し、当第3四半期連結会計期間（連結会計年度）においては、経営者の合理的な見積もりに基づく合理的に算定された価額をもって四半期連結貸借対照表計上額（連結貸借対照表計上額）としております。これにより、市場価格をもって四半期連結対照表計上額（連結貸借対照表計上額）とした場合に比べ、前連結会計年度は、「有価証券」は1,880百万円増加、「繰延税金資産」は658百万円減少、「その他有価証券評価差額金」は1,222百万円増加しており、当第3四半期連結会計期間は、「有価証券」は1,259百万円増加、「繰延税金資産」は440百万円減少、「その他有価証券評価差額金」は818百万円増加しております。

変動利付国債の合理的に算定された価額は、国債の利回り等から見積もった将来キャッシュ・フローを、同利回りに基づく割引率を用いて割り引くことにより算定しており、国債の利回り及び同利回りのボラティリティが主な価格決定変数であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

		前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	円	16.89	21.63
(算定上の基礎)			
四半期純利益	百万円	2,879	3,687
普通株主に帰属しない金額	百万円		
普通株式に係る四半期純利益	百万円	2,879	3,687
普通株式の期中平均株式数	千株	170,500	170,488

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないので記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第201期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)中間配当について、平成24年11月12日開催の取締役会において、平成24年9月30日の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- (1) 配当金の総額 511百万円
- (2) 1株当たりの金額 3円00銭
- (3) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成24年12月10日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月1日

株式会社 山形銀行  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 押 野 正 徳

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 岩 崎 裕 男

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社山形銀行の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社山形銀行及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。